



28日から石井實  
絵画教室合同展

第10回石井實絵画教室  
合同展が28日から8月1  
日まで、市文化センター  
で開かれる。

10回目を迎えた同展では、22人の作品158点を展示する。

教室を開設して40年がたつ。現在、美術大学を目指す高校生と一般的の約30人が絵画を学んでいる。

3時まで、小川町高萩字  
金ノ前地内の同ダムで開  
かれる。小雨決行。  
ダム湖を中心としたオ  
ープンスペースなどをレ  
(83) 2886-11まで。

市民に伝えたい、いや、とまるで比例するか  
伝えなくてはいけない  
と思つたことを文字で  
綴(つづ)りつてしまし  
となん気にせずに生活で  
数年後には放射線ので  
してくるので

## 池田さんが「朝活」を紹介

「働く大人を元気にする」字じもたちがnap.pyに朝活のプロ池田千恵さんと考える、今こそ中山歯科矯正医院（小



Before 9プロジェクト  
クト主宰の池田千恵さん  
(東京)の講演と、池田さんによる臨床ゲノム医療学

取り力が身につく」「前向きになれる」の3つを朝活のメリットとして提示。対談は脳科学的・ゲ

し、心身の健康づくり  
適している朝活の話に  
味深く耳を傾けていた

約40人が集まつた同研究会の立ち上げ、運営に携わった高橋聰美つぐは国際大教授が講師を務めた。震災後、幼児は、東日本大高橋教授が語った。性を語った。望ましいサポート体制には基調講演が行われた。日本で多数の遺体に子どもが触れた事態は第2次世界大戦以来で、先行研究での報告はなく、トランプを抱えて子どもたちの生き方を注視する重要な目にしてかを競うような「グロテスク比べ」では、中でも、どれだけ遺体を同研究会の立ち上げ、運営に携わった高橋聰美つぐは国際大教授が講師を務めた。震災後、幼児は、東日本大高橋教授が語った。性を語った。望ましいサポート体制には基調講演が行われた。日本で多数の遺体に子どもが触れた事態は第2次世界大戦以来で、先行研究での報告はなく、トランプを抱えて子どもたちの生き方を注視する重要な目にしてかを競うような「グロテスク比べ」では、中でも、どれだけ遺体を

早起き・朝活のメリッ  
トを語る中山院長と池田さんの対談

A black and white photograph showing a man standing on the right side of the frame, holding a microphone and speaking to a group of people seated in front of him. The room contains several potted plants of various sizes. A large framed picture hangs on the wall behind the speaker.

た。ただ、放射線問題に  
関しては眞摯（じ）な  
気持ちで取り込んでい  
くと済めていましたの  
で、どのような圧力が  
あろうと眞実を伝えて  
が行われた。

の連載が、やっかいな放射線と向かい合って生活するためのご助力になれたのなら幸いであります。

中内在住者や市 立賃に2万円 10万円、奨励賞に3万円、	事業所対象に防災訓練 小名浜共同 防災協議会
共同防災協議会	引火し、火災が発生した」との想定で、同社の
事業所を対象	自衛防災隊員と小
炎訓練が20日	名浜共同防災セン
子大剣の小名浜	ターの隊員と防災
大剣事業所で行	要員、小名浜消防
発生した際に迅	署員合わせて37人
に対応できるよ	が参加した。
事業所が持つ回	…………
している。今回	真剣な表情で消
「船が荷揚げし	火活動に臨む参
田が漏えいして	加者たち

3時まで、小川町高萩字  
金ノ前地内の同ダムで開  
かれる。小雨決行。  
ダム湖を中心としたオ  
ープンスペースなどをレ  
ポートなどの出店もある。  
問い合わせは、県小玉  
ダム管理事務所＝電話  
(83) 288611まで。

---

**28日から石井實  
絵画教室合同展**

市文化センター

第10回石井實絵画教室  
合同展が28日から8月1  
日まで、市文化センター  
で開かれる。

画家石井實さん(小名  
浜)は平と小名浜に絵画

教室を開設して40年がた  
つ。現在、美術大学を目指  
す高校生と一般の約30  
人が絵画を学んでいる  
10回目を迎えた同展で  
は、22人の作品158点  
を展示する。

会期中の開場時間は午  
前10時から午後6時(最  
終日は同5時)まで。

市民に伝えたい、いや、どうまるで比例するか  
と思つたことを文字で  
伝えなくてはいけない  
綴(つづ)ってきました。  
た。

◇

3カ月間の  
連載ではさま  
ざまな反響が  
ありました。  
ラドンの記事  
はインターネ  
ットで紹介され、全国  
に広まってしまい少し  
困惑しました。ホタル  
の記事は抗議文までく  
りで放射線問題に取り組  
みで専門家として  
一般市民の狭間(はざま)  
に立ち、双方を隔て  
ての壁を取り除くつも  
うしているので  
どう気にして生活す  
る年後には放射線のこ  
となど気にせずに生活  
しているのである  
ではないかと想  
つてしまふだ  
らいいに。

私は、一水  
富原 聖一

# 真摯な気持ち